

きれやすきものイとキエとエオとヲおよび字音のよび声のう
つりたるもの即ちカフ(買)とユフ(乞)アフ(遇)とオフ(追)イ
フ(言)とユフ(夕)などもその仮名遣ひをいつれか一方に定め
ざるべからず かくては遂に我国固有の声音の特性を破壊し
て更に一層簡便なる声音を創作せざるべからざるにいたら
む 字音を一切我国にて廃棄するか廃棄せざるかの疑問にい
たりては更に別問題なり 数千年来既に我国の言語として行
はれ来れるもの仮名遣の区別煩雜なりとて中々にその利益と
便益とを失ふものにはあらずや これおのが普通教育に対す
る字音の意見なり 字音教授の便法の如きは更にのぶるとこ
ろあらむ

(二) 井上文部大臣の問目に答ふ

栗 田 寛

むかし三善清行の意見の封事に朝家の大学を立しより天平の
代に至る其間右大臣真備朝臣道芸を恢弘して親自ら伝授す即
学生四百人をして五経三史明法算術音韻籀篆等の六道を習は
しむとみえて古へは此音韻の学ありしとみゆ 吾輩もと音韻
にならはず 故にこの問題に答ふるよしを知らず されとも
聊か愚見を述むに

第一問に様また要用をかきわくるにヨウ、エウ、ヤウなどあ
らま莫ろの音り所屬こつきてのわざなればたとへは彼国の平

上去入の音に所屬ある事を知り又韻鏡などの古書に徴して牙
齒喉舌の音考へたる人ならでは容易にかきわくべきにあらざ
ればこれ等のこと普通一般の人に知らしむる事容易のわざに
あらねば仮字によらずして漢字をそのままに用ふるの簡便な
るには若かさるへし もし又婦女幼童にて漢字を知らさら
んには土俗の言のまゝに自由にかゝしむるが適當なるへし
(書籍を著し歌又文章などに用ふるは此限りにあらず)

第二問蝶をテフ法をハフと書くを仮字遣ひの法とすれと我国
に入声なければ違へりとの御説なれど是等みな所屬によれる
ものにて字音をたがへじとてのわざなるへし 是も簡便に従
はぶなほ漢字に従ふをよしとす

第三問支那の音を矯めて国音に附しむる時は困をコウス柑子
をカウシ判官をハウグワンと云ふが如くあるべしとあれと是
は漢字をためて国音に附しむるにはあらてンをウに通はして
国語の如くに漢音を和らかにものしたるまでなり カンフリ
をカウフリと云ふの類に同じ

第四問漢字の正音につくへしとならば古の音博士のわざに習
ひてキをクキ、ケをクエなどと書わくへしとあれとこのキをク
キと云ふは拗音なれともケをクエと云ふは通音にて正音には
あるへからず また紀長谷雄を発昭とかくことは相通名と申
て馬養を宇合意美奈を音那清行を居逸と云るが如く仮名にせ
しにはあらず 唯通音をとりて借り用ひたるなり されとこ

れによりて按ふに長谷雄はハセヲにはあらでハツセヲと訓へく清行はキヨツラにはあらでキヨイキと訓へき事も知らるゝやうなり 芭蕉をハセヲといふも古今の歌に心ばせをばよめるはバセウの音を仮りて心ばせをとしいるなるべしとの説あり 其委しき事は知らされは歌人に問ひ明らかめて後に定むべし

第五問侵をシム安をアンと云ふを疑はれたれとは音韻学者には成説ありてムと撥ぬるとンと撥るとニとヌと撥るとの別明かなる事の由にうけたまはりぬ 且支那の古音の吾国に遺れりといふは信ひかたしとあれと既に英人艾約瑟と申者が説に朝鮮書有唐以前古音日本有漢魏唐三代古音といへれば大臣には信なひ給はざるも我先輩之をうへなひ洋人も亦之を信へるなり いかゝはせん

すべて字音の仮名を普通に知らしむるは難きわざなれば愚は漢字に従ふをよしとは云ふなり 唯し古書古歌を考へて万葉集法王帝説上宮記古事記などの古音を知らむと思ふ者の為には一の音韻学科を設けて皇朝に伝はれる音と支那の音を学ばしむるも宜しからん歟

又より処なく漢字を仮名かきにせむとならば法に拘らず其人々の思ふまゝにかゝしめて宜しからん 然らば司法をシハウともシホウとも蝶をテフ又はテウともチヨウとも九郎判官をくらはうぐわん又くろうはんがんなと認めて通用すべし

ればいと便理にして容易なるべし

次に各郷土の訛音は漢字の音韻と難易自ら異なれば所謂東京にてヒシを訛り東北にてユズ南方にヒフを混する如きの類教員の指導によりて発音を正しく教へなば漸次に改むる方法もあるべきなり

上文にいへるが如く支那音韻の学に暗ければもとより詳細なる事申すに由なし 唯愚陋の僻説を記し試みたるになむ

明治二十七年五月十五日

(三) 御下問条々之御答

問 目 一 則

我が国音国字の言靈の幸にかなへるは外国にまさりて簡便なるによるなり 況て文字は魚を得る為の筈なりといへり 故に教育は成るべきだけ文字の学ひを簡便にする手段を取ること必要なれ

我が国の仮名は一種の特性として印度の悉曇欧州の「アルハベット」に遙かに優る所あり 是は彼の文字には子音字母音字の二つありて二字又は数字を組合せて一音をなす故に生徒は字学の手始として先づ反切法即ち綴字法を学ばざるべからず 此反切法を諳するためにも一年乃至三四個月を費すといへり 我が仮名は一字一音をなす故に反切法を学ぶの煩勞なきはいかに外国に秀てたるめてたき簡便の文字ならず